



福澤諭吉著
學問ノススメ七編
全

ト 1
3905
6



門ト1
號3905
卷6

福澤諭吉
大學圖書館
昭和34.10.5
藏書

學問ノス、メ七編



福澤諭吉 著

國民ノ職分ヲ論ス
國法ノ貴キヲ論シ國民タル者ハ一人
前ノ役目ヲ勤ルモノナリト云ヘリ今
又コノ役目職分ノ事ニ就キ尚其詳ナルヲ説テ
六編ノ補遺ト爲ス、左ノ如シ
凡ソ國民タル者ハ一人ノ身ニシテ二箇條ノ勤
アリ其一ノ勤ハ政府ノ下ニ立ツ一人ノ民タル
所ニテコレヲ論ス即チ客ノ積リナリ其二ノ勤
ハ國中ノ人民申合セテ一國ト名ツクル會社ヲ

學問ノス、メ七編

結ヒ社ノ法ヲ立テ、コレヲ施シ行フコトナリ即
チ主人ノ積リナリ譬ヘハコ、二百人ノ町人ア
リテ何トカ云フ商社ヲ結ヒ社中相談ノ上ニテ
社ノ法ヲ立テコレヲ施シ行フ所ヲ見レバ百人
ノ人ハ其商社ノ主人ナリ既ニコノ法ヲ定メテ
社中ノ人何レモコレニ從ヒ違背セザル所ヲ見
レバ百人ノ人ハ商社ノ客ナリ故ニ一國ハ猶商
社ノ如ク人民ハ猶社中ノ人ノ如ク一人ニテ主
客二様ノ職ヲ勤ム可キ者ナリ
第一 客ノ身分ヲ以テ論スレバ一國ノ人民ハ
國法ヲ重ンジ人間同等ノ趣意ヲ忘ル可ラズ他

人ノ來リテ我權義ヲ害スルヲ欲セザレバ我モ
亦他人ノ權義ヲ妨ク可ラズ我樂ム所ノモノハ
他人モ亦コレヲ樂ムガ故ニ他人ノ樂ヲ奪テ我
樂ヲ増ス可ラズ他人ノ物ヲ盜テ我富ト爲ス可
ラズ人ヲ殺ス可ラズ人ヲ讒ス可ラズ正シク國
法ヲ守テ彼我同等ノ大義ニ從フ可シ又國ノ政
体ニ由テ定リシ法ハ假令ヒ或ハ愚ナルモ或ハ
不便利ナルモ妄ニコレヲ破ルノ利ナシ師ヲ起
スモ外國ト條約ヲ結フモ政府ノ權ニアル事ニ
テコノ權ハモト約束ニテ人民ヨリ政府へ與ヘ
タルモノナレバ政府ノ政ニ關係ナキ者ハ決シ

テ其事ヲ評議ス可ラズ人民若シ此趣意ヲ忘レ
テ政府ノ處置ニ就キ我意ニ叶ハズトテ恣ニ議
論ヲ起シ或ハ條約ヲ破ラントシ或ハ師ヲ起サ
ントシ甚シキハ一騎先驅ケ白刃ヲ携テ飛出ス
ナドノ舉動ニ及フコトアラバ國ノ政ハ一日モ保
ツ可ラズコレヲ譬ヘハ彼ノ百人ノ商社兼テ申
合セノ上社中ノ人物十人ヲ撰テ會社ノ支配人
ト定メ置キ其支配人ノ處置ニ就キ殘九十九人ノ
者共我意ニ叶ハズトテ銘々ニ商法ヲ議シ支配
人ハ酒ヲ賣ラントスレバ九十九人ノ者ハ牡丹餅
ヲ仕入レントシ其評議區々ニテ甚シキハ一了

簡ヲ以テ私ニ牡丹餅ノ取引ヲ始メ商社ノ法ニ
背テ他人ト爭論ニ及ブナドノコトアラバ會社ノ
商買ハ一日モ行ハル可ラズ遂ニ其商社ノ分散
スルニ至レバ其損亡ハ商社百人一様ノ引受ナ
ル可シ愚モ亦甚シキモノト云フ可シ故ニ國法
ハ不正不便ナリト雖モ其不正不便ヲ口實ニ設
テコレヲ破ルノ理ナシ若シ事實ニ於テ不正不
便ノ箇條アラバ一國ノ支配人タル政府ニ說キ
勤メテ靜ニ其法ヲ改メシム可シ政府若シ我説
ニ從ハズンバ且力ヲ盡シ且堪忍シテ時節ヲ待
ツ可キナリ

具
三

第二 主人ノ身分ヲ以テ論ズレバ一國ノ人民
ハ卽チ政府ナリ其故ハ一國中ノ人民悉皆政ヲ
爲ス可キモノニ非ラザレバ政府ナルモノヲ設
テコレニ國政ヲ任セ人民ノ名代トシテ事務ヲ
取扱ハシム可シトノ約束ヲ定メタレバナナリ故
ニ人民ハ家元ナリ又主人ナリ政府ハ名代人ナ
リ又支配人ナリ譬ヘバ商社百人ノ内ヨリ撰バ
レタル十人ノ支配人ハ政府ニテ殘九十人ノ社
中ハ人民ナルガ如シコノ九十人ノ社中ハ自分
ニテ事務ヲ取扱フコトナシト雖モ己ガ代人トシ
テ十人ノ者ヘ事ヲ任セタルユヘ己ノ身分ヲ尋

レバコレヲ商社ノ主人ト云ハザルヲ得ズ又彼
ノ十人ノ支配人ハ現在ノ事ヲ取扱フト雖モ
ト社中ノ頼ヲ受ケ其意ニ從テ事ヲ爲ス可シト
約束シタル者ナレバ其實ハ私ニ非ズ商社ノ公
務ヲ勤ル者ナリ今世間ニテ政府ニ關ルコトヲ公
務ト云ヒ公用ト云フモ其字ノ由テ來ル所ヲ尋
レバ政府ノ事ハ役人ノ私事ニ非ズ國民ノ名代
ト爲リテ一國ヲ支配スル公ノ事務ト云フ義ナ
リ
○右ノ次第ヲ以テ政府タルモノハ人民ノ委任
ヲ引受ケ其約束ニ從テ一國ノ人ヲシテ貴賤上

下ノ別ナク何レモ其權義ヲ逞フセシメザル可
ラズ法ヲ正フシ罰ヲ嚴ニシテ一點ノ私曲アル
可ラズ今コ、ニ一群ノ賊徒來リテ人ノ家ニ亂
入スルハ政府コレヲ見テコレヲ制スルヲ能ハ
ザレバ政府モ其賊ノ徒黨ト云テ可ナリ政府若
シ國法ノ趣意ヲ達スルヲ能ハズシテ人民ニ損
亡ヲ蒙ラシムルヲアラバ其高ノ多少ヲ論セズ
其事ノ新舊ヲ問ハズ必ズコレヲ償ハザル可ラ
ズ譬ヘバ役人ノ不行届ニテ國內ノ人歟又ハ外
國人ヘ損亡ヲ掛ケ三萬圓ノ償金ヲ拂フヲアラ
ン政府ニハ固ヨリ金ノアル可キ理ナケレバ其

償金ノ出ル所ハ必ス人民ナリコノ三萬圓ヲ日
本國中凡三千萬人ノ人口ニ割付レバ一人前十
文ヅ、ニ當ル役人ノ不行届十度ヲ重ヌレバ人
民ノ出金一人前百文ニ當リ家内五人ノ家ナレ
バ五百文ナリ田舎ノ小百姓ニ五百文ノ錢アレ
バ妻子打寄り山家相應ノ馳走ヲ設テ一夕ノ愉
快ヲ盡ス可キ筈ナルニ唯役人ノ不行届ノヨニ
由リ全日本國中無辜ノ小民ヲシテ其無上ノ歡
樂ヲ失ハシムルハ實ニ氣ノ毒ノ至ナラズヤ人
民ノ身トシテハ斯ル馬鹿ヲシキ金ヲ出ス可キ
理ナキニ似タレト如何セン其人民ハ國ノ家元

主人ニテ最初ヨリ政府ヘコノ國ヲ任セテ事務
ヲ取扱ハシムルノ約束ヲ爲シ損徳共ニ家元ニ
テ引受ク可キ筈ノモノナレバ唯金ヲ失ヒシ片
ノミニ當テ役人ノ不調法ヲ彼是ト議論ス可ラ
ズ故ニ人民タル者ハ平生ヨリヨク心ヲ用ヒ政
府ノ處置ヲ見テ不安心ト思フコトアラバ深切ニ
コレヲ告ゲ遠慮ナク穩ニ論ス可キナリ
○人民ハ既ニ一國ノ家元ニテ國ヲ護ルタメノ
入用ヲ拂フハ固ヨリ其職分ナレバコノ入用ヲ
出スニ付キ決シテ不平ノ顔色ヲ見ハス可ラズ
國ヲ護ルタメニハ役人ノ給料ナカル可ラズ海

陸ノ費軍ナカル可ラズ裁判所ノ入用モアリ地
方官ノ入用モアリ其高ヲ集テコレヲ見レバ大
金ノヤウニ思ハルレヒ一人前ノ頭ニ割付ケテ
何程ナルヤ日本ニテ歳入ノ高ヲ全國ノ人口ニ
割付ケナバ一人前ニ一圓カ二圓ナル可シ一年
ノ間ニ僅カ一二圓ノ金ヲ拂フテ政府ノ保護ヲ
被リ夜盜押込ノ患モナク獨旅行ニ山賊ノ恐モ
ナクシテ安穩ニ此世ヲ渡ルハ大ナル便利ナラ
ズヤ凡ソ世ノ中ニ割合ヨキ商賣アリト雖モ運
上ヲ拂フテ政府ノ保護ヲ買フホド安キモノハ
ナカル可シ世上ノ有様ヲ見ルニ普請ニ金ヲ費

ス者アリ美服美食ニカヲ盡ス者アリ甚シキハ
 酒色ノタメニ錢ヲ棄テ、身代ヲ傾ル者モアリ
 是等ノ費ヲ以テ運上ノ高ニ比較シナバ固ヨリ
 同日ノ話ニ非ズ不筋ノ金ナレバコソ一錢ヲモ
 惜ム可ケレト道理ニ於テ出ス可キ筈ノミナラ
 ズコレヲ出シテ安キモノヲ買フ可キ錢ナレバ
 思案ニモ及バズ快ク運上ヲ拂フ可キナリ
 ○右ノ如ク人民モ政府モ各其分限ヲ盡シテ互
 ニ居合フトハ申分モナキトナレト或ハ然ラズ
 シテ政府ナルモノ其分限ヲ越テ暴政ヲ行フ
 アリコ、ニ至テ人民ノ分トシテ爲ス可キ舉動

ハ唯三箇條アルノミ即チ節ヲ屈シテ政府ニ從
 フ歟力ヲ以テ政府ニ敵對スル歟正理ヲ守テ身
 ヲ棄ル歟コノ三箇條ナリ
 第一節ヲ屈シテ政府ニ從フハ甚タ宜シカラ
 ズ人タル者ハ天ノ正道ニ從フヲ以テ職分トス
 然ルニ其節ヲ屈シテ政府人造ノ惡法ニ從フハ
 人タルノ職分ヲ破ルモノト云フ可シ且一度ヒ
 節ヲ屈シテ不正ノ法ニ從フトハ後世子孫ニ惡
 例ヲ遺シテ天下一般ノ弊風ヲ釀シ成ス可シ古
 來日本ニテモ愚民ノ上ニ暴政府アリテ政府虛
 威ヲ逞フスレバ人民ハコレニ震ヒ恐レ或ハ政

府ノ處置ヲ見テ現ニ無理トハ思ヒナガラ事ノ
理非ヲ明ニ述ヘナバ必ズ其怒ニ觸レ後日ニ至
テ暗ニ役人等ニ窘メラル、トアラシク恐レテ
言フ可キトモ言フモノナシ其後日ノ恐トハ
俗ニ所謂犬ノ糞ヲ憚リ如何ナル無理ニテモ政
府ノ命ニハ從フ可キモノト心得テ世上一般ノ
氣風ヲ成シ遂ニ今日ノ淺マシキ有様ニ陥リタ
ルナリ卽是レ人民ノ節ヲ屈シテ禍ヲ後世ニ殘
シタル一例ト云フ可シ

第二 力ヲ以テ政府ニ敵對スルハ固ヨリ一人

ノ能スル所ニ非ズ必ズ徒黨ヲ結バザル可ラズ
卽是レ内亂ノ師ナリ決シテコレヲ上策ト云フ
可ラズ既ニ師ヲ起シテ政府ニ敵スル事ハ事ノ
理非曲直ハ姑ラク論ゼズシテ唯力ノ強弱ヲ
ヲ比較セザル可ラズ然ルニ古今内亂ノ歴史ヲ
見レバ人民ノ力ハ常ニ政府ヨリモ弱キモノナ
リ又内亂ヲ起セバ從來其國ニ行ハレタル政治
ノ仕組ヲ一度ヒ覆ヘスハ固ヨリ論ヲ俟タズ然
ルニ其舊ノ政府ナルモノ假令如何ナル惡政府
ニテモ自カラ亦善政良法アルニ非ザレバ政府
ノ名ヲ以テ若干ノ年月ヲ渡ル可キ理ナシ故ニ

一朝ノ妄動ニテコレヲ倒スモ暴ヲ以テ暴ニ代
ヘ愚ヲ以テ愚ニ代ルノミ又内亂ノ源ヲ尋レバ
モト人ノ不人情ヲ惡テ起シタルモノナリ然ル
ニ凡ソ人間世界ニ内亂ホド不人情ナルモノハ
ナシ世間朋友ノ交ヲ破ルハ勿論甚シキハ親子
相殺シ兄弟相敵シ家ヲ燒キ人ヲ屠リ其惡事至
ラザル所ナシ斯ル恐ロシキ有様ニテ人ノ心ハ
益殘忍ニ陥リ殆ド禽獸トモ云フ可キ舉動ヲ爲
シナガラ却テ舊ノ政府ヨリモヨキ政ヲ行ヒ寬
大ナル法ヲ施シテ天下ノ人情ヲ厚キニ導カン
ト欲スル乎不都合ナル考ト云フ可シ

第三 正理ヲ守テ身ヲ棄ルトハ天ノ道理ヲ信
ジテ疑ハズ如何ナル暴政ノ下ニ居テ如何ナル
苛酷ノ法ニ窘メラルトモ其苦痛ヲ忍テ我志ヲ
挫クトナク一寸ノ兵器ヲ携ヘズ片手ノ力ヲ用
ヒズ唯正理ヲ唱テ政府ニ迫ルトナリ以上三策
ノ内コノ第三策ヲ以テ上策ノ上トス可シ理ヲ
以テ政府ニ迫レバ其時其國ニアル善政良法ハ
コレガタメ少シモ害ヲ被ルトナシ其正論或ハ
用ヒラレザルトアルモ理ノ在ル所ハコノ論ニ
由テ既ニ明ナレバ天然ノ人心コレニ服セザル
トナシ故ニ今年ニ行ハレザレバ又明年ヲ期ス

可シ且又カラ以テ敵對スルモノハ一ヲ得ント
シテ百ヲ害スルノ患アレモ理ヲ唱テ政府ニ迫
ルモノハ唯除ク可キノ害ヲ除クノミニテ他ニ
事ヲ生ズルコトナシ其目的トスル所ハ政府ノ不
正ヲ止ルノ趣意ナルガ故ニ政府ノ處置正ニ歸
スレバ議論モ亦共ニ止ム可シ又カラ以テ政府
ニ敵スレバ政府ハ必ズ怒ノ氣ヲ生シ自カラ其
惡ヲ顧ミズシテ却テ益暴威ヲ張り其非ヲ遂ゲ
ントスルノ勢ニ至ル可シト雖モ靜ニ正理ヲ唱
フル者ニ對シテハ假令ヒ暴政府ト雖モ其役人
モ亦同國ノ人類ナレバ正者ノ理ヲ守テ身ヲ棄

ルヲ見テ必ズ同情相憐ムノ心ヲ生ズ可シ既ニ
他ヲ憐ムノ心ヲ生ズレバ自カラ過ヲ悔ヒ自カ
ラ膽ヲ落シテ必ズ改心スルニ至ル可シ
○斯ノ如ク世ヲ患テ身ヲ苦シメ或ハ命ヲ落ス
モノヲ西洋ノ語ニテ「マルチルドム」ト云フ失フ
所ノモノハ唯一人ノ身ナレモ其功能ハ千萬人
ヲ殺シ千萬兩ヲ費シタル内亂ノ師ヨリモ遙ニ
優レリ古來日本ニテ討死セシ者モ多ク切腹セ
シ者モ多シ何レモ忠臣義士トテ評判ハ高シト
雖モ其身ヲ棄タル由縁ヲ尋ルニ多クハ兩主政
權ヲ爭フノ師ニ關係スル者歟又ハ主人ノ敵討

等ニ由テ花々シク一命ヲ抛タル者ノミ其形ハ
美ニ似タレモ其實ハ世ニ益スルコトナシ己ガ主
人ノタメト云ヒ己ガ主人ニ申譯ナシトテ唯一
命ヲサヘ棄レバヨキモノト思フハ不文不明ノ
世ノ常ナレモ今文明ノ大義ヲ以テコレヲ論ズ
レバ是等ノ人ハ未ダ命ノステトコロヲ知ラザ
ル者ト云フ可シ元來文明トハ人ノ智徳ヲ進メ
人々身躬カラ其身ヲ支配シテ世間相交リ相害
スルコトモナク害セラル、コトモナク各其權義ヲ
達シテ一般ノ安全繁昌ヲ致スヲ云フナリサレ
バ彼ノ師ニモセヨ敵討ニモセヨ果シテコノ文

明ノ趣意ニ叶ヒコノ師ニ勝テコノ敵ヲ滅シコ
ノ敵討ヲ遂ゲテコノ主人ノ面目ヲ立レバ必ズ
コノ世ハ文明ニ赴キ商賣モ行ハレ工業モ起リ
テ一般ノ安全繁昌ヲ致ス可シトノ目的アラバ
討死モ敵討モ尤ノヤウナレモ事柄ニ於テ決シ
テ其目的アル可ラズ且彼ノ忠臣義士ニモ夫程
ノ見込ハアルマジ唯因果ヅクニテ且那へ申譯
マデノコトナルベシ且那へ申譯ニテ命ヲ棄タル
者ヲ忠臣義士ト云ハ、今日モ世間ニ其人ハ多
キモノナリ權助ガ主人ノ使ニ行キ一兩ノ金ヲ
落シテ途方ニ暮レ且那へ申譯ナシトテ思案ヲ

定メ並木ノ枝ニフンドシヲ掛テ首ヲ縊ルノ例
ハ世ニ珍ラシカラズ今コノ義僕が自カラ死ヲ
決スル時ノ心ヲ酌デ其情實ヲ察スレバ亦憐ム
可キニ非ズヤ使ニ出デ、未ダ返ラズ身先ヅ死
ス長ク英雄ヲシテ涙ヲ襟ニ滿タシム可シ主人
ノ委託ヲ受テ自カラ任シタル一兩ノ金ヲ失ヒ
君臣ノ分ヲ盡スニ一死ヲ以テスルハ古今ノ忠
臣義士ニ對シテ毫モ恥ヅルコトナシ其誠忠ハ日
月ト共ニ耀キ其功名ハ天地ト共ニ永カル可キ
筈ナルニ世人皆薄情ニシテコノ權助ヲ輕蔑シ
碑ノ銘ヲ作テ其功業ヲ稱スル者モナク宮殿ヲ

建テ、祭ル者モナキハ何ゾヤ人皆云ハン權助
ノ死ハ僅ニ一兩ノタメニシテ其事ノ次第甚ダ
些細ナリト然リト雖ヒ事ノ輕重ハ金高ノ大小
人數ノ多少ヲ以テ論ズ可ラズ世ノ文明ニ益ア
ルト否トニ由テ其輕重ヲ定ム可キモノナリ然
ルニ今彼ノ忠臣義士が一萬ノ敵ヲ殺シテ討死
スルモコノ權助が一兩ノ金ヲ失フテ首ヲ縊ル
モ其死ヲ以テ文明ヲ益スルコトナキニ至テハ正
シク同様ノ譯ニテ何レヲ輕シトシ何レヲ重シ
トス可ラザレバ義士モ權助モ共ニ命ノ棄所ヲ
知ラザル者ト云テ可ナリ是等ノ舉動ヲ以テマ

ルチルドムト稱ス可ラズ余輩ノ聞ク所ニテ人
民ノ權義ヲ主張シ正理ヲ唱テ政府ニ迫リ其命
ヲ棄テ、終ヲヨクシ世界中ニ對シテ恥ルナ
カル可キ者ハ古來唯一名ノ佐倉宗五郎アルノ
ミ但シ宗五郎ノ傳ハ俗間ニ傳ハル草紙ノ類ノ
ミニテ未ダ其詳ナル正史ヲ得ズ若シ得ルア
ラバ他日コレヲ記シテ其功德ヲ表シ以テ世人
ノ龜鑑ニ供ス可シ

明治七年三月

官許出版

小西茂助

33131

